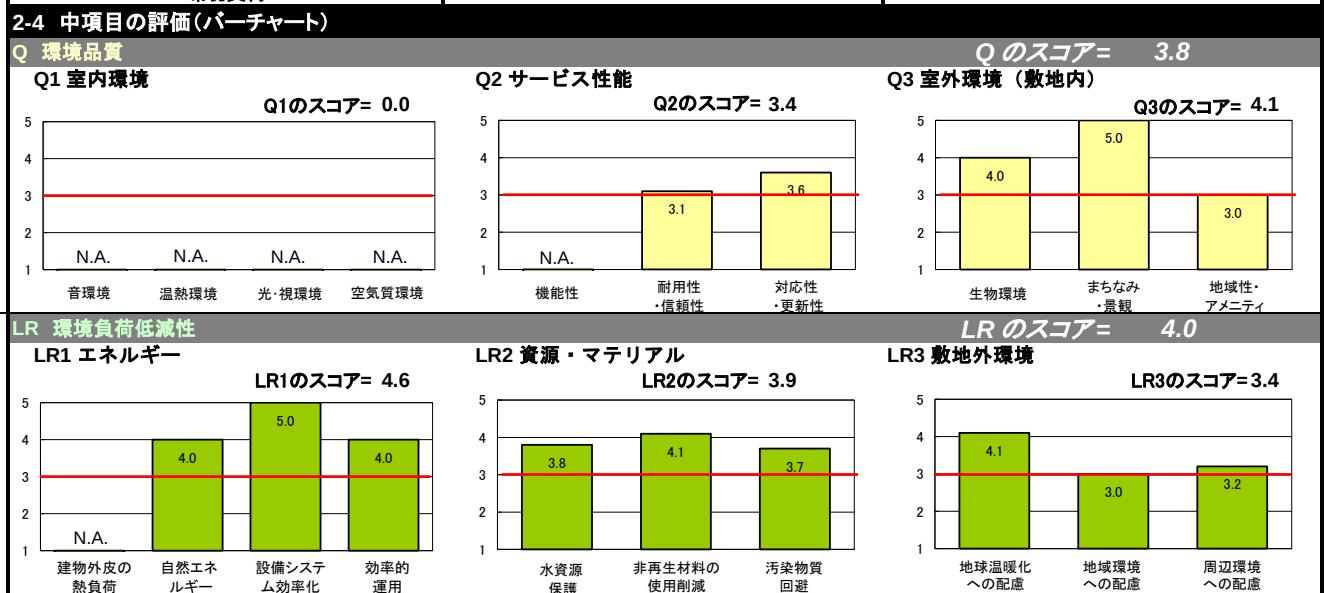
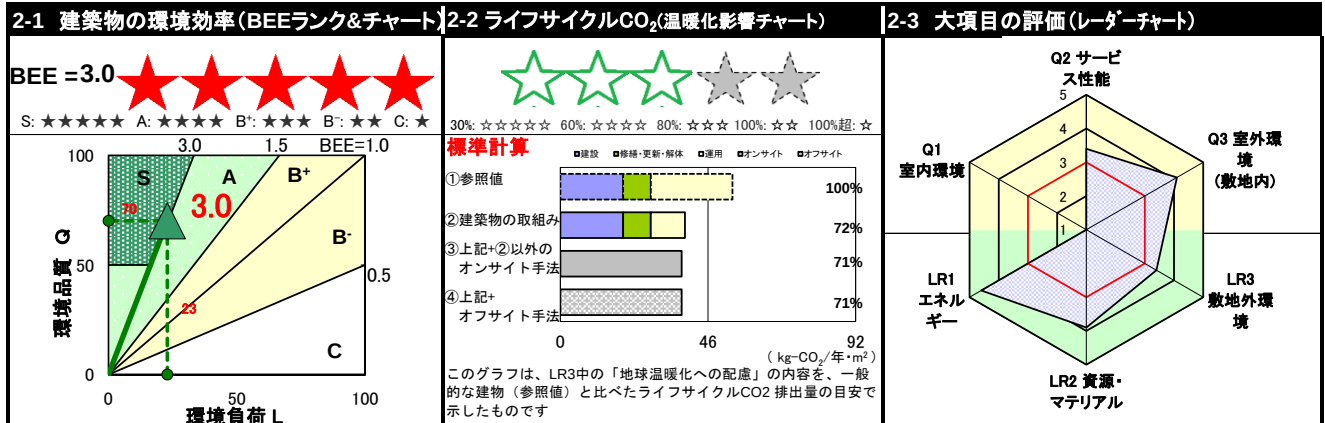


CASBEE®名古屋

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE 建築環境総合性能評価システムマニュアル2016 使用評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	名古屋市立八事斎場	階数	地上3階、地下1階
建設地	愛知県名古屋市中区天白町大字八事字裏山33番、43番3、66番51・61、69番60・61・62、内69番2、1803番	構造	S造
用途地域	第二種住居地域、準防火地域	平均居住人員	200 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2028年9月 予定	評価の実施日	2025年11月15日
敷地面積	15,191 m ²	作成者	
建築面積	5,895 m ²	確認日	2025年11月20日
延床面積	16,273 m ²	確認者	



3 設計上の配慮事項		
総合		その他
ライフサイクルCO ₂ 排出率の低減に努め、地球環境保護に配慮している。		特になし。
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
評価対象外	重要度係数 I = 1.25 階高: 3.9m以上 0.1 ≤ [壁長さ比率] < 0.3	外来種リストにある各樹種を植えません。そして、自生種の保全に配慮した緑地づくりを行っている。 植栽により、良好な景観を形成している。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
「トップライト」を使用している。 [BEIm] = 0.40 BEMSを使用している。	節水コマなどに加えて、便器(擬音装置付き)も採用している。 雨水利用をしている。 ODP=0、GWP=3の発泡剤を用いた断熱材を使用している。	ライフサイクルCO ₂ 排出率71%。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目スコア・結果シート

名古屋市立八事斎場

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル

■評価ソフト:

CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する 重み係数	重点項目 スコア
1. 温暖化対策				4.4
LR1	エネルギー	4.6	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮	4.1	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.05	
2. 自然共生				3.8
Q3.1	生物環境の保全と創出	4.0	0.171428571	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	有	0.017142857	
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	3.0	0.085714286	
3. 循環型社会				4.0
LR2.1	水資源保護	3.8	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	4.1	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	3.0	0.01875	

結果

1. 温暖化対策

評価点 = 4.4



2. 自然共生

評価点 = 3.8



3. 循環型社会

評価点 = 4.0



重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。